

平成24年2月の解説（週間天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、旬のはじめと旬末に冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流入して北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となった所がありました。旬の中頃は本州の南岸を通過した低気圧の影響で、東・西日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨や雪が降りました。沖縄・奄美では、寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

中旬は、冬型の気圧配置となった日が多くなりました。旬のはじめと中頃以降に強い寒気が流入して北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となった所がありました。旬の前半は日本の南海上を通過した低気圧の影響により、東・西日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨や雪が降りました。沖縄・奄美では、旬の前半は前線の南側となり晴れの日が多く、後半は寒気や気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、旬の前半は移動性高気圧に覆われた日もありましたが、北海道付近や本州の南岸を通過した低気圧や前線の影響により、北日本および東・西日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨や雪が降りました。旬の後半からは一時的に冬型の気圧配置が強まり強い寒気が流入して、北・東日本の日本海側を中心に大雪となった所がありました。旬末には、日本の南海上を通過する低気圧の影響により、東日本の太平洋側でも大雪となった所がありました。沖縄・奄美では、旬の前半は前線の影響を受けることが多く、後半は寒気の影響を受け、曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、北日本から西日本にかけて低くなりましたが、沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、西日本の日本海側でかなり多く、北日本の日本海側、東・西日本の太平洋側で多くなりました。北日本の太平洋側、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、西日本でかなり少なく、北日本の日本海側、東日本、沖縄・奄美で少なくなりました。北日本太平洋側では平年並でした。

【2月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^(注)より2ポイント低い69%でした。地方毎の適中率は北陸地方で5ポイント、九州北部地方では12ポイント低くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値程度か例年値より小さく、東北地方、関東甲信地方、近畿地方及び中国地方で例年値より0.5～0.6℃小さくなり、北陸地方では1.1℃小さくなって、全国平均では2.1℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、各地方とも例年値より小さく、関東甲信地方と九州北部地方及び九州南部地方では0.5℃小さくなって、全国平均では1.8℃になりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4月は暖かい日が多くなりますが、低気圧の通過後、大陸から移動してきた高気圧に覆われて良く晴れた日の朝には最低気温が低くなります。週間天気予報で晴れの予報が出ている日の朝は、気温の低下や霜が降りるおそれがありますので、健康管理や農作物などの管理に注意して下さい。